

「記憶に残る演奏を」 佐世保東翔高吹奏楽部

県立佐世保東翔高（峰薫校長）吹奏楽部は2月9日の定期演奏会に向けて練習を重ねている。1年生の頃と比べて大幅な部員数の減少を経験した3年生たちは負けじと部を引っ張ってきた。部員15人で本年度の集大成となる音楽を奏でる。

来月9日 定演

◆ 1月6日午後、部員たちは演奏会で披露するマーチングの隊列を一つ一つ確認していた。本番は楽器を持ち足元が見えないので、練習初期段階でマーチングの動きを記した絵コンテシートを手にして動きを体にたたき込む。休憩時間にも上級生が下級生に動きのこつや改善点を伝授していた。

◆ 「記憶に残る演奏を」が部のスローガン。顧問の末岡華教諭(59)は「この部の強みは妥協しない姿。部活動のガイドラインが昔より厳しくなり、いかに限られた時間の中で楽しんで納得のいくような演奏を磨くか生徒たちは実行している」と見守る。

◆ かつて同部を率いていたのが、髪形から「リーゼント先生」の愛称で知られる九州文化学園グループ長岡短大(同



2月9日の定期演奏会に向けて練習を重ねる県立佐世保東翔高の吹奏楽部
佐世保市東町

3年生5人の集大成 部員減少に負けず

市椎木町)の中村明夫准教授。吹奏楽コンクール県大会で同校を何度も金賞に導いた。

◆ 2022年度から23年度にかけて中村さんが同校を退職し、人数の多かった当時の3年生が卒業して部員数は約40人から半減。約80人在籍した14年と比べると天所帯だからこそ作り上げられる音楽に挑みづらくなった。

◆ それでも現在の3年生5人は「環境が変わっても自分たちのすべきことは変わらない」「金賞を狙っていく」と、23年4月、2年生に進級して奮起。後任の末岡教諭とともに部を再構築し、後輩の育成指導に当たった。

◆ 毎年のヤマ場は夏に開かれる吹奏楽コンクールとマーチングコンテストの県大会。人数の問題でマーチングの大会に出るかどうか葛藤し、話し合った。結果、「この人数でも金賞が取れる」と3年生が判断し、出場。金賞を受賞した。

◆ 前部長の山下彩音さん(18)は3年間を振り返り、「苦悩も多々あったが一人で抱え込まず、5人で相談し合えた。マーチングでの金賞は一生の思い出と涙を流した。『絶対に15人だけだと思えない演奏をするので楽しんで聞いてほしい』と来場を求めている。

◆ 3年生にとっては青春最後の舞台となる第25回定期演奏会は、佐世保市光月町の市体育文化館コミュニティセンターホールで2月9日午後0時半開演、同1時開演。無料で全席自由。「キャンピング・クルー」や「宝島」など全5曲を演奏する。(佐藤大樹)